

学校評価書

総社市立山手小学校
校長 竹本 悟修
(公 印 省 略)

1 自己評価

I 評価結果 (別紙学校評価資料 参照)

II 分析・改善方策 (別紙学校評価資料及び AP プラン参照)

1 心豊かにたくましく生きるやまてっこ

心プロジェクト＝心豊かな児童の育成

① 月目標・週目標をもとに「なりたい自分」の具体化と振り返り

「やさしく思いやりのある子ども」

非認知能力 『寛容』、『安心感』

教職員が児童の行動を見取る視点とその尺度を共有していく。

② 道徳の授業を通して、価値ある行動を自分の言葉で表現する。

①及び②を通して、児童の行動を習慣化していく。

「進んであいさつ」の現状 R4 12 月＝86 p R5 12 月＝84.2 p

2 自ら学びに向かうやまてっこ

学びプロジェクト＝確かな学力

① 授業改善の視点「どのように学びとらせるか？」

・めあてに「何ができれば良いのか？」という着地点を明確にする。

・学習指導要領に記載されている内容に基づき、児童が教科書を使い切る授業へと改善していく。

・児童が学びの方法を選択する。

② 高学年での準備学習に向けての家庭学習の定着

(成果) 5 年生 約 7 3 分 6 年生 約 1 0 6 分 学習時間の伸び

3 元気プロジェクト及び 4 地域連携プロジェクト 学校評価資料のとおり

2 学校関係者評価者名

(学識経験者)

(公民館関係者)

(大学関係者)

(地域関係者)

(地域関係者)

(PTA 関係者)

(PTA 関係者)

3 学校関係者評価 (詳細は別紙学校評価資料のとおり)

1 心豊かにたくましく生きるやまてっこ

規準は概ね達成されている。課題として「友だちに優しくされていない」と感じている児童が 1 割いる現状への取組を重視してほしい。

2 自ら学びに向かうやまてっこ

自己評価は妥当である。学習方法 (例 教科書、タブレット等) について、何が妥当なのか今後も検証を続けるべきである。

3 心豊かにたくましく生きるやまてっこ＝元気プロジェクト

基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携の具体化が課題である。

4 地域とともにある学校づくり

地域の人に支えられているという安心感を醸成していく機会を増やす。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

○1「心豊かにたくましく生きるやまてっこ」及び2「自ら学びに向かうやまてっこ」の取組を教職員・家庭及び地域との協働により発展的にレベルアップする。

○新たな重点取組として、基礎基本の徹底について、モジュール（15分）を活用して、まず1～3年を対象に、重点的に、基礎基本の徹底反復学習について取り組んでいく。